

オオダテでオソダテ
大館における教育ブランドの確立と促進
 Oodate de Osodate

The establishment and promotion of education brand in Odate

佐藤信治¹, ○志萱侑太², 中山淳雄², 椿礼², 岡貴史³, 染谷萌衣³, 福富大真³, 宮島悠輔³, 山本雄太郎³
 Shinji Sato¹, *Yuta Shigaya², Atsuo Nakayama², Hajime Tsubaki², Takashi Oka³, Moe Someya³, Hiroma Hukutomi³,
 Yusuke Miyajima³, Yutarou Yamamoto³

2014. 896 municipalities was announced as the "annihilation potential city". At the same time, it has also faced increasing problem of low birthrate and aging and vacant houses in the region. Under such circumstances, how it would be considered local Genesis. We, parenting environment. In other words, it encourages the population mobilization by to create an environment of education, it was thought to be an opportunity of activation of the region. Educational environment has well-equipped, in Odate, which boasts the academic achievement of the national top-level, although various education system has been introduced, you've entered the "annihilation potential city". In this project, we propose a construction of a soft surface, such as to support the existing system and the reconstruction of the hard surface to utilize vacant houses which is one of the problems..

1. はじめに

2014 年. 896 の自治体が「消滅可能性都市」として発表された. それと同時に, 地方においては少子高齢化や空き家の増加問題も抱えている. そんな中で, どのように地方創世が考えられるだろうか. 私たちは, 子育ての環境. つまり, 教育の環境を整えることで人口動員を促し, 地域の活性化のキッカケができると考えた. 教育環境が整っており, 全国トップレベルの学力を誇る大館市では, 様々な教育制度が導入されているものの, 「消滅可能性都市」に入ってしまった. そこで本計画では, 既存制度を支えるようなソフト面の構築と, 問題の一つでもある空き家を活用するハード面の再構築を提案する.

2. 大館市の特徴

大館市が抱える問題としては, 2 つある. 31.61% の高齢化率と 1,741 件もある空き家を課題として設けている. 一方特徴としては, 主に全国トップレベルの学力がつく教育制度, 400 年ある歴史がある曲げわっぱ, そしてまちの 80% が森林に囲まれていることが挙げられる. 今回, 私たちは教育制度に注目して提案していく.

教育制度に関して, 大館市においてまず学力の考え方が異なる. 普通学力といえバテストの点数をいかに取れるかだが, 大館では学力を「生きるための力」と

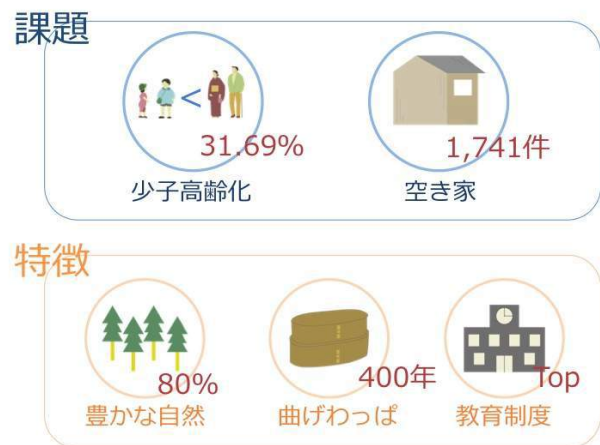


Figure 1. Problem and features of Odate

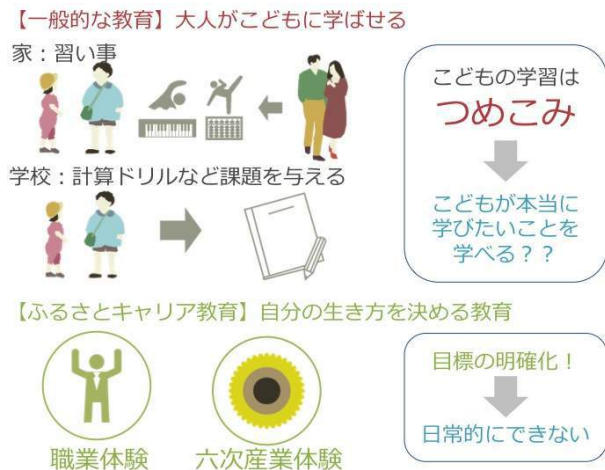


Figure 2. General education

1 : 日大理工・院・海建、Graduate School , Dept of Oceanic Architecture & Eng ,CST , Nihon-u

2 : 日大理工・学部・海建、Dept of Oceanic Architecture & Eng ,CST , Nihon-u

3 : 日大理工・専任講師・海建、Assistant Prof , Dept of Oceanic Architecture & Eng ,CST , Nihon-u , Dr.Eng

して定義している。そのため、教育において特徴的なのは考えて話し合う時間を多く設ける「問題解決型授業」であり、なおかつ様々なことを「体験」できることを重点として、これによって自立する能力を備え、ふるさとの未来を切り開く総合的人間力を鍛え

る大館型教育を行っている。その大館型教育として現在行われているのが「ふるさとキャリア教育」。これは子供達に自分の生き方を決めてもらうことを目的と様々な体験をしてもらうものでもあり、具体的に行われているのが大館市で行われている仕事を実際に体験したり、そしてひまわりの生産・加工・流通といった6次産業の体験を行うものもある。今回、私たちはふるさと教育の他にもう一つ大館型教育を提案する。

3. オソダテ教育

ふるさとキャリア教育とは少し異なり、日常で子供達が人生の目標や興味を持ち、好きになれることを探せる手法を提案する。この際に、日常での学びを大切にしたいので大館市の教育研究所が新たに目指す教育方針である「大館盆地を教室に、市民一人一人を先生に」という考え方を元に、子供達が学びたいことを大館市内で日頃から探せるようにし、それを市民一人一人がお手伝いをする、そんな教育制度を提案する。

しかし、これは一般的な教育とは異なり、子供の成長は遅い。なぜなら一般的な教育とは異なり学びが大人主体ではなく子供主体である。つまり、学びたいことを子供自ら見つけることができ、日常的に行うこともできる。

この日常で子供が本当に学びたいことを市民一人一人のサポートし、見つけていく手法を大館で行う、ゆっくりとした子育てこそが「オソダテ」である。

オソダテでは大館市にある使われていない遊休不動産、つまり空き家に知識・運動・工房・交流の4つのテーマを与えて、それらを改築してオソダテの拠点となるコアを計画する。子供達は日常で各コアにいつでも好きなときに行って、各コアのテーマに沿って自分たちが学びたいこと、好きになれることを探していく。

そしてこれらコアを放課後に気軽にいけるようにまちの小学校から500m範囲、子供の徒歩圏内に4つのコアを設けていくように計画していく。

既存教育制度と並行した本計画の環境を整えることで、大館市の大きな魅力となり、発信していくことで、まちの活性化に繋がると考える。

【新たに提案したい教育】

日常で、こどもが学びたいこと自分で見つける

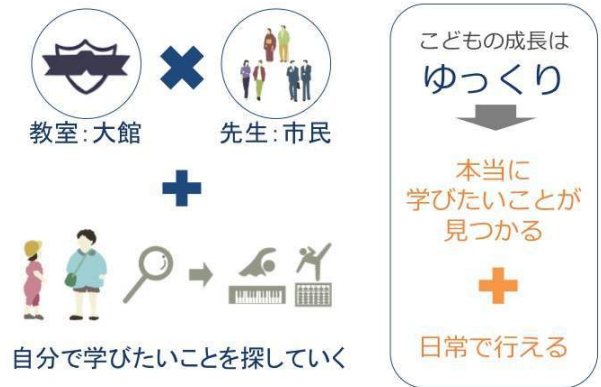
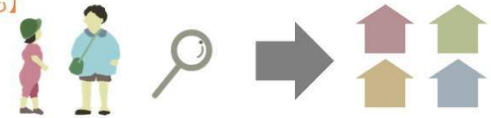


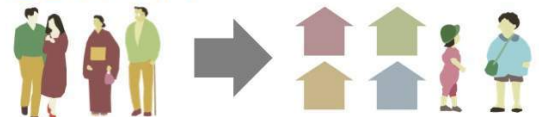
Figure 3. Proposal of education

【こども】



好きなコアにいつでも行って
様々なコトに触れて学びたいことを見つけれれる

【市民（こどもの家族）】



人財名簿に登録して先生になり
こどもたちが学びたいコトを見つけれける手伝いをする。

Figure 4. Configuration system

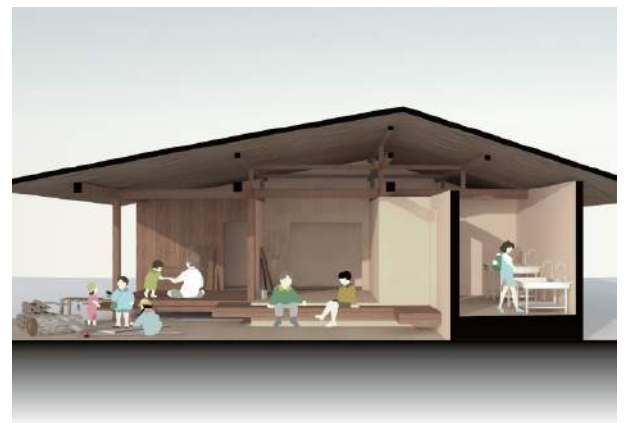


Figure 5. Cross section Perth

4. 参考文献

- 「人口減少×デザイン」 笈裕介 2015年
- 「ぼくらのリノベーションまちづくり」 嶋田洋平 2015年